本章では，診断士試験・２次試験直前期の受験者の方に向けて，「今からでもできること」，そして「今こそやるべきこと」を紹介したいと思います。

試験本番が近づいてきたこの時期には，解答プロセスの大幅な変更はリスクが大きくなります。それよりも，これまでの勉強で培ってきた自分なりのノウハウを磨き，肉づけしていくことが重要です。本稿で紹介するテクニックは，いずれも試験本番を意識した実戦的なものであり，今からでも取り組める内容です。

試験まで期間は短いですが，この期間の過ごし方次第では，まだまだ得点を伸ばすことは可能です。時間を有効に使い，１点でも上乗せできるよう，最後まで走り切っていただきたいと思います。

1　事例Ⅰ～Ⅲの「今から＆今こそ」対策

⑴　ファイナルペーパーはシンプルにまとめる

直前期となる２次試験の４週間から３週間前の時期には，事例ごとにファイナルペーパーを作成して，最後のまとめを行うことが有効です。

ファイナルペーパーを作成する目的は，主に２つです。１つは，これまでの学習で得た「知識・ノウハウ」を整理・構造化し，試験本番でパフォーマンスを出しやすくすること。もう１つは，解答の「プロセス・思考パターン」を整理し，型を作り，パフォーマンスの安定性を上げることです。

これまでの学習は知識やノウハウを増やしていく作業だったかもしれませんが，ファイナルペーパーを作るときには，それらを取捨選択し，整理することが必要です。他の誰かが作ったノウハウではなく，自分自身がこれまで学習してきた中で気づいたこと，学習してきたことを整理することに意味があります。なぜなら，自身の思考のクセ，解答の傾向などは自分にしかわからないものだからです。

ファイナルペーパーは，Ａ４サイズの１～２枚に要約し，下記のような内容が良いと思います。

＜ファイナルペーパーに記載すべき事項＞
- 問題構成（事例ごとの出題傾向）
- 解答手順
- 頻出論点
- 気をつけること（自身の弱点など）

ファイナルペーパーは試験当日に目を通すものであり，これまで学習してきたことを再確認するものです。試験当日に普段通りのパフォーマンスが発揮できるように，簡潔に「当たり前」のことを書くようにしましょう。

なお，ファイナルペーパーは事例ごとに作成しますが，それぞれの事例で同じことを書いてしまっても構いません。あくまでも目的は，各事例における「整理」だからです。

⑵　時間切れは絶対にしてはいけない

時間切れで解答用紙を埋めることができないことは，最も避けなければならない事態です。事例Ⅳについては，解答を埋められない設問もあり得ると思いますが，事例Ⅰ～Ⅲは１つの設問も漏らさず埋めなければいけません。

これまで学習を積み重ねてきて，同じような問題を何度も解いてきた方も多いでしょう。しかし，試験本番で出題される問題は，必ず初見問題となります。初見問題を想定した時間管理の練習を必ずやるようにしてください。

その時に，80分という時間をどのように使うかは細かく区切って決めておきましょう。「何分までには設問文を読み終える」，「１つの設問にかける時間は何分以内にする」というように，段階ごとに細かく設定しておけば，途中で時間を調整することができます。

私の場合は，試験開始後，一番初めに問題用紙の余白に80分間のタイムスケジュールを書いていました。そして，常にタイムスケジュールに合わせて解答プロセスを進めることで，時間切れだけは起こさないようにしていました。

基本的に時間と質はトレードオフの関係になります。問題を解きながら時間が足りないと感じた時には，「質を落としても時間を確保する」という選択ができるようにしましょう。文章を書く時間は削ることはできませんから，削れるとすれば考える時間です。文章の推敲に時間をかけたくなる気持ちはわかりますが，事前に決めたタイムスケジュールに則って，行動するようにしましょう。

⑶　強みや弱みを答える設問で得点アップを！

事例Ⅰ～Ⅲでは，設問１で強みや弱みを答える問題が多く出題されます。この設問では，限られた文字数の中でいかに効率良く，多くの要素を記入できるかが得点を重ねるポイントになります。

与件文には事例企業の強み，弱みを表す要素が数多く散りばめられています。与件文を読みながら強みにマークを付けると，多くの要素が見つかるはずです。ただし，限られた文字数の中で，そのすべてを解答用紙に記入することはできません。

この時に，解答要素を事前に優先順位づけしてから書けば，得点効率を上げることができます。たとえば，強みを40字以内で解答する場合，３つ程度，解答要素を書きたいところだと思います。その時に与件文の中から拾ってきた強みの中で４つ程度，候補を選んでおきます。そして，その候補の中で加点が大きいと思うものを順位づけします。順位の高いものから書き，文字数の許すまで要素を書き連ねていきます。

この方法（**図表１**）なら事前に文字数を細かく調整する必要がなく，書きながら要素の数を加減することで文字数を調整できます。事前に要素を順位づけすることで，得点の大きな要素を書き漏らすリスクも避けられます。解答を練り上げる時間を削りながら，効率良く得点につなげられるはずです。

図表１　強みや弱みを答える設問の解答ステップ